

次号予告

とびら

臨床指導者の Philosophy	三愛会伊藤病院	奈良	勲
特集=PT・OT 教育の現状と課題			
厚生省教育規準.....	リハ学院	田村	美枝子
養成学校カリキュラム紹介.....	近畿リハ学院	他	
実習病院の実態調査について.....	府中リハ学院	山下	勲志
臨床指導者マニュアル.....	リハ学院	矢谷	令子
私の卒後教育.....	阪大	武富	由雄・他
WCPT の教育.....	都養育院	松村	秩
WFOT の教育.....	九州リハ大	佐藤	剛
保健大学資料.....	都心障センター	寺山	久美子
座談会/臨床実習教育の現場から	神奈川リハセンター	田口	順子・他
講座			
運動学シリーズ I 「歩行」	都養育院	松村	秩
プラクティカルメモ			
リウマチの家庭体操.....	慶大病院	小池	信雄
	岡山大学病院	明石	謙
メディカルプロGRESS	七沢病院	横山	巖
Q and A.....	A: 兵庫リハセンター	山下	隆明
	Q: 甲州中央温泉病院	藤本	欽也

編集後記

多事であった1974年の最後の号をお届けする。来年は1975年、「理学療法士作業療法士法」が公布されたのが1965年であるから、早いものでもう満10年になる。第1回の国家試験がおこなわれ日本にもはじめてPT・OT が誕生したのはその次の年であるが、いずれにせよ振り返れば、幾多の曲折はあったものの、この10年の間にわが国のPT・OT は著しく進歩したといえるであろう。もちろんまだまだ多くの問題が残されていることも事実である。

それはたとえば「とびら」の駒沢氏の悩みにも端的に示されている。要するに日本の社会がPT・OT、総じてリハビリテーションというものを受け入れやすくできていないということであり、農村で特に拡大さ

れてあらわれているとはいえ都会でも本質的には同じである。この悩みを着実な努力で一つ一つ解決していく以外にPT・OTの生き、発展していく途はないであろう。

長尾論文、鎌倉論文はこの5月のリハビリテーション医学会のセミナーで述べられたことを中心にまとめていただいたものである。このセミナーは好評で内容の深いものであったが、論文にもそれがよく示されていると思う。熟読玩味をお願いしたい。石川論文は、8巻6号の「痛み」の特集に心理的な問題が抜けていたため、特にお願いしたものであり、特集と併せて読んでいただければ幸いである。その他の論文も力のこもったものばかりであり執筆者各位に感謝したい。

ではどうかよいお年を。来年が10年目の飛躍の年でありますように。(上田 敏)

編集顧問

天 児 民 和
九州労災病院長
五味 重 春
府中リハビリ学院長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
(五十音順、以下同じ)

編集委員

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 馨
神奈川リハセンター
鈴 木 明 子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
田 村 美枝子
清瀬リハビリ学院
寺 山 久美子
都心障センター
松 村 秩
都養育院リハビリ部

編集同人

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守
松 本 妙 子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
横 山 巖
和 才 嘉 昭

(担当 細田・松橋)